【「みんなで木づかい」ゼロカーボン推進プロジェクト】

木づかい情報　第1号

身近にある生活用品などを木製品に替えることの意義

樹木は光合成により空気中の二酸化炭素（CO_2）を吸収、酸素（O_2）を放出して成長し、木を伐って木材として生活の中などで利用した場合は、木材の中に炭素（C：カーボン）を貯蔵し続けます。

例えば世界最古の木造建築物である法隆寺は1,300年に渡って炭素を貯蔵してきました。

森林を育てて木材として利用し、伐採した跡地に木を植えて育てるサイクルは、二酸化炭素の吸収源を増やし炭素を固定・貯蔵するという資源の循環利用であり、ゼロカーボンの推進に繋がるものです。

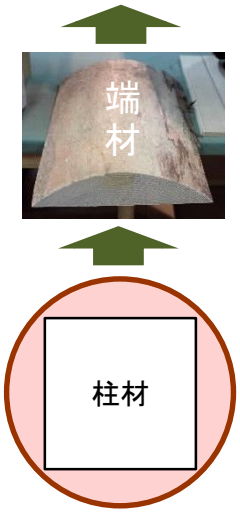
（図：2021年3月 林野庁「森林・林業・木材産業の現状と課題」から引用）

「割り箸」は環境に悪い？　「木のマイ箸」は環境に良い？

割り箸は、柱や板などの建築用木材を加工する過程で発生する「端材」を有効活用して作られます。再生産可能な木材資源を無駄なく利用するという点で環境に優しい製品です。

ただし、国産割り箸の産地は奈良県や石川県などで、長野県の木材ではほとんど製造されておらず、国内で流通している割り箸の９割以上は低価格の海外（主に中国）産となっています。

運搬に要するエネルギー（CO_2排出）や地域内の経済循環、また「使い捨て」といったことを考えれば、海外産や県外産の割り箸を使うよりも県内産の木製の箸を大事に使うことの方が環境に良いと考えられます。



今回紹介している木製の箸は、主に木曽地域などで伐採された木材の端材で製造されており、県産の木工芸品の販売促進にもつながることから、長野県の環境保全や産業振興に寄与するものです。